

2023年度 自己評価結果公表シート

学校法人 京新学園
太秦幼稚園

1. 本園の教育目標

<p>「知」・「徳」・「体」・「食」のバランスのとれた保育を教育方針とし、幼児教育を行っている。</p> <p>「知」・・・知恵、考える力を育てる</p> <p>「徳」・・・善悪の判断を自分でできる子どもに育てる</p> <p>「体」・・・健康な体に育て、十分な体力をつけさせる</p> <p>「食」・・・食に関心をもち、感謝する心を育てる</p> <p>この精神を基にして、先生や友達と一緒に幼児期に必要な経験を積むことで、人との信頼関係やコミュニケーション能力を育て、意地悪をしない正しい心、人を許せるやさしい心、嘘をつかない強い心、謝ることのできる素直な心を持った心豊かな子どもの育成を目指している。</p>

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

<p>保育の質の向上に組織的に取り組み、保育の環境構成や教材研究など振り返りにより保育内容の改善や見直し等を積極的に行っていく。職務に応じた知識及び技能を身に付け教育の質を高めていく。</p>
--

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
1. 保育の質の向上	<p>①様々な面での園内研修の充実が図れた。</p> <p>子どもの内面理解において臨床心理士の園内研修を充実させ、個々に合わせた視覚教材を研究・作成・実践し、保育の質の向上に繋がられた。また、園全体で不審者対策や防犯研修を行うことでより一層、園舎の防犯性や職員間の安全意識を更に高められた。今後も改善を図りながら実践的なものにしていきたい。</p> <p>②オンライン研修や対面研修へ参加し、自己研鑽を高めることができた。</p>
2. 子育て支援の環境づくり	<p>①教職員は保護者とのコミュニケーションに配慮しながら、より良い環境づくりを築くことができた。</p> <p>②未就園児保育や園庭開放では、幼稚園を知って頂ける機会となったり保護者の憩いの場として大勢の方の利用があった。遊具や玩具などの環境が充実しており、子どもたちも楽しむ様子が伺えた。在園児との交流が出来るようにカリキュラムも組み込めた。今後は暑さ対策も視野に入れていきたい。</p> <p>③臨床心理士の定期的訪問に加えて保育現場で生かせるアドバイスをもらうなど実践や環境構成の改善に繋がられた。専門的立場からのアドバイスを保護者と共有し連携できた。臨床心理士の子育て相談では保護者からの希望も増えた。</p>
3. 異年齢児との交流など	<p>① 移動動物園や作品展では縦割り保育を意識して取り入れることで、異年齢児との関わり方を知るきっかけとなり、園庭や延長保育での自由あそびでは自然と異年齢児の交流が増えた。延長保育の充実したカリキュラムの為、利用者が多くなり縦割り保育ならではの教え合う姿が多く見られた。</p> <p>②満3歳児も含めての異年齢交流が更に深まり、思いやりを持って関わろうとする子が増えた。</p>
4. 危機管理、安全管理	<p>①昨年度の環境を見直し「ヒヤリ・ハット」改善。また、バス乗車時の「ヒヤリ・ハット」マニュアルの見直しを全職員で共通理解し、環境整備が行えた。</p> <p>②不審者対策として、オートロック式の通用門の開閉は徹底して行うよう職員間で</p>

	<p>も共通理解している。</p> <p>また、保護者へも開閉時への危機感を持ってもらえるよう注意喚起も行えた。</p> <p>③突然起こる自然災害に対して、園児が自分で考え行動できるように、また、全職員の危機管理意識を高めるためにも、避難訓練を計画的に実施できた。</p> <p>災害についての大型絵本を日々の保育で取り入れたり、活動中に不意打ちでの避難訓練も実施し、とっさの判断への意識も高められた。</p> <p>④スイミング活動の中にも身を守るための動作を組み込み、とっさの指示でも行動に移せるように指導している。今後も引き続き行い、指導していきたい。</p>
--	--

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>・危機管理体制についてマニュアルも都度改善し、安全管理を行えた。防犯研修を通して園全体の職員間の共通理解も図れた。地震や防犯など大型絵本を活用し身の安全について学ぶ機会を増やせた。</p>

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
1. 保育の質の向上	<p>①園内研修の内容は、引き続きテーマに沿って意見交換を行い職員間の共通理解が図れるようにする。</p> <p>② 危機管理体制など、新人や経験年数が少ない職員にも指導方法などについて早期から園内研修を実施し、共通意識を持って取り組めるようにする。</p> <p>③外部講師や臨床心理士ともタッグを組み、保育の質の向上に努めたい。</p>
2. 異年齢児との交流など	<p>①普段の保育でも異年齢児と関わる機会を増やし、教え合ったり助け合ったりと一緒に過ごす時間を今後も作るようにする。</p>
3. 危機管理 安全管理	<p>①防犯研修を通して、不審者対策として園での体制を整えられるように改善していく。</p> <p>職員間だけではなく、登降園時での保護者の方や課外講師との協力も不可欠であるため、オートロックの確実な開閉を周知していきたい。</p> <p>②園内の耐震対策や防犯対策について、園独自の研修を行い、日々の環境設定の見直しを図れた。安心して保育できる環境を今後も続けていきたい。</p>
4. 地域の役割を果たすための環境づくり	<p>①幼児教育と小学校教育を円滑に接続するため、自分の思いを相手に伝えることが出来るように日々の保育に努めているが、幼小連携においても互いの教育課程を理解しながら連携に努める。</p>
5. 子育て支援の環境づくり	<p>①在園児の保育に支障がない程度に、未就園児保育の充実や子育て相談を行っていくようにする。</p> <p>②月2回の未就園児向けの園庭開放、2歳児保育と在園児との交流などでカリキュラムに支障が出ない様に時期やフリー職員の人数調整に無理のないように開催していく。</p>

6. 学校関係者の評価

<p>・満3歳児保育が始まったことにより、年少が落ち着いてスタートできたように見受けられた。</p> <p>・通用門のオートロックに対する注意喚起が度々あって、安心感がある。</p> <p>・保育の質の向上については、引き続き園内研修などで教職員のモチベーション維持に繋げてください。</p> <p>・満3歳児クラスも2年目に入り、園児たちが自然に関わっているようにお見受けします。</p> <p>・危機管理、安全管理に関しては、異常気象や災害対策を継続的に取り組んでいただき、スイミング活動中の監視、バス置き去りは徹底的にヒューマンエラーが起こらないようにしてください。</p> <p>・地域の役割、子育て支援の環境づくりは、入園希望者を増やす取り組みや令和8年4月からの幼保連携型への移行準備を様々なツールを使用して発信してください。</p>
